

情報公開文書

S25-15

研究課題名	健診データを用いた疾病発症の予知プログラムの開発
研究期間	西暦 2015年 1月 16日 ～ 5年間
研究の目的と意義	<p>本研究の目的は、健診における過去の膨大な蓄積データの解析から、がんや非アルコール性脂肪性肝炎などの疾病予知、および鑑別診断が自動的に行えるプログラムを開発することです。</p> <p>健診データから疾病の予知・鑑別診断を行えるプログラムが完成し、実用化されれば、現在とは全く異なるパラダイムのがん・非アルコール性脂肪性肝炎の早期診断が実現できます。疾病の予知ができれば、予防医学の側面から高リスク群を囲い込み、精密検査による早期発見や保健指導・栄養指導・運動療法による生活習慣改善等による予防が可能となります。鑑別診断に関しては、客観的かつ簡便、非侵襲的な検査方法として、非専門医でも鑑別診断の補助検査に利用できます。診断根拠を客観的に患者に示せることも治療上有用です。検査に伴う患者の身体的、経済的負担も節約できます。さらには、これまで過剰な精密検査に伴って発生していた医療費の無駄を解消することができます。</p> <p>さらに本研究はがん・非アルコール性脂肪性肝炎について独自の知見を追加するものであり、今後その解明によって病態の理解が深まり、基礎医学研究にも貢献すると考えられます。</p>
研究方法	<p>今までに、本院健診センターを受診された患者の人口統計学的情報および病歴や診断に必要な各種検査等の医学情報を匿名化した後、京都大学において解析を行います。</p> <p>解析に基づき、疾病発症予知、診断が自動的に行えるプログラムを作成します。</p> <p>解析に用いたデータは論文発表10年後まで当院の研究実施責任者の管理のもと保存し、その後京都大学の研究実施責任者が破棄します。</p> <p>今後、本研究により作成されたプログラムを搭載した疾病発症予知・鑑別診断デバイスの作成に成功した後、有効性を検証する前向き研究を行いたいと考えています。</p>
個人情報の保護、研究参加の拒否について	<p>利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p> <p>また、本研究への参加拒否を希望される患者さんについては、担当医師にお申し出ください。</p>
結果の公表	<p>この研究の結果は、研究に関連する学会や学術雑誌等で発表されることがありますが、その際も対象となった個々の症例の報告はなされず、集計されたデータをもとに得られた結果のみを公開し、個人情報は守られます。</p>
問合せ先	<p>【研究責任者】 京都第二赤十字病院 健診部 副部長 西大路 賢一 〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355-5 TEL：075-231-5171（代） FAX：075-256-3451（代）</p>